

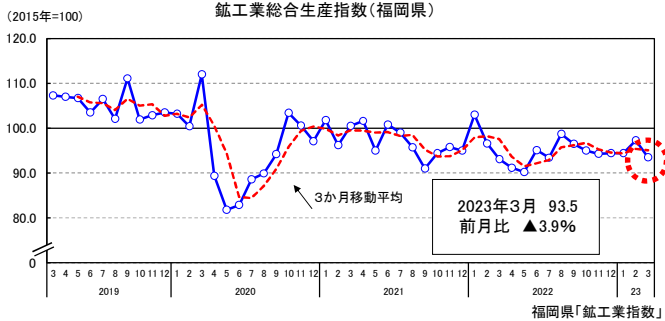
ふくおかの経済

令和5年5月号



生産 持ち直しの動きに足踏みがみられる。

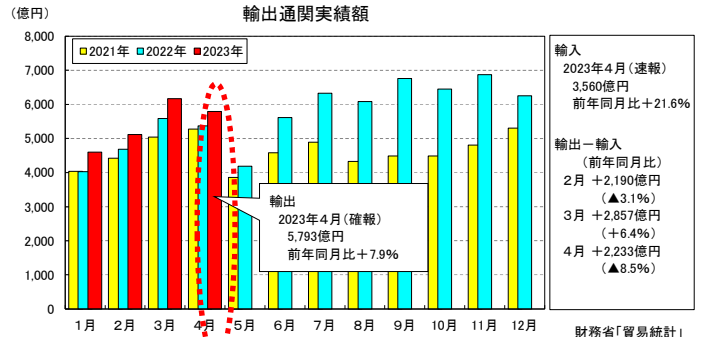
3月の生産指数は汎用・生産用機械工業などが低下したため、2か月ぶりに前月を下回りました。



鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

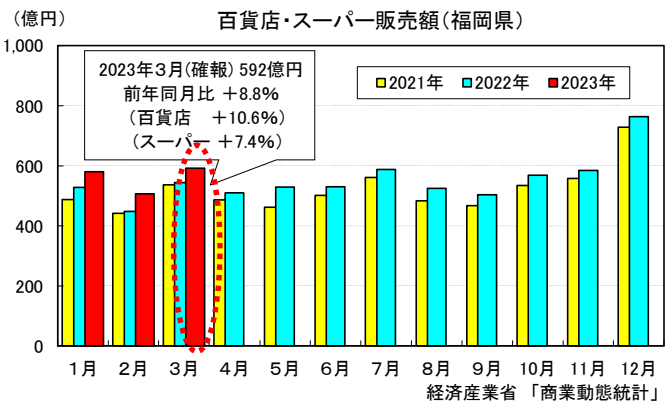
貿易 輸出額、輸入額ともに、前年同月を上回っている。

4月の輸出額は、前年同月比+7.9%、輸入額は同+21.6%といずれも前年同月を上回りました。



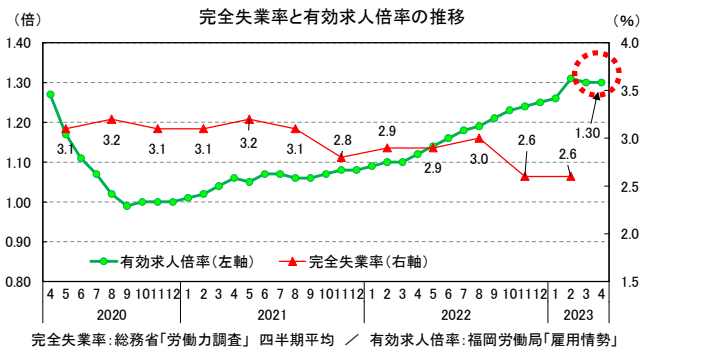
消費 持ち直している。

3月の百貨店・スーパー販売額は、18か月連続で前年同月を上回りました。



雇用 雇用情勢は、改善している。

4月の有効求人倍率は1.30倍で、前月と同倍となりました。

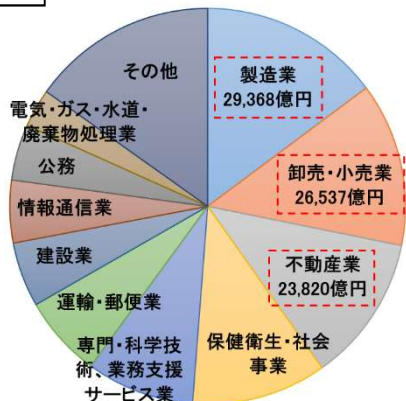


「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。1.00倍より大きいと、人手不足を表します。

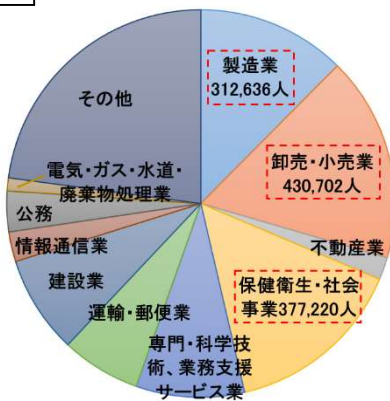
今月のピックアップ 県内GDPの経済活動別の内訳

- 県内総生産(名目)を経済活動別にみると、「製造業」(2兆9,368億円)が最も多く、続いて「卸売・小売業」(2兆6,537億円)、「不動産業」(2兆3,820億円)となっています(図表1)。
 - 経済活動別の県内就業者数は、「卸売・小売業」(430,702人)が最も多く、続いて「保健衛生・社会事業」(377,220人)、「製造業」(312,636人)となっています(図表2)。
 - 県内総生産を県内就業者で割った、一人当たり県内総生産は、「不動産業※」(5,040万円)が最も多く、続いて「電気・ガス・水道・廃棄物処理業」(2,264万円)、「情報通信業」(1,618万円)となっており、県内就業者数が最も多い卸売・小売業は616万円と産業合計(788万円)の78%程度に留まるなど、経済活動毎に違いがあることがわかります(図表3)。
- ※ 県民経済計算において、不動産業に持ち家の家賃相当を産出額に含めることとしていることから、一般的な不動産業より大きな数値となります。

図表1 県内総生産(名目)(億円)



図表2 県内就業者数(人)



図表3 一人当たり県内総生産(万円)

項目	金額(万円)
不動産業	5,040
電気・ガス・水道・廃棄物処理業	2,264
情報通信業	1,618
公務	1,065
製造業	939
運輸・郵便業	795
産業合計	788
専門・科学技術、業務支援サービス業	771
卸売・小売業	616
保健衛生・社会事業	580
建設業	511

※主に県内総生産の多いものを抜粋
出所: 県調査統計課「福岡県民経済計算」(令和元年度)